

	該当箇所	委員からの意見等	市の考え方(回答)
1	全体	<p>まちの状態を表す指標で取り上げられている基準値、どのような方法で調査された数値を明らかにすることで信頼性がアップするのではないのでしょうか？(全てではなく、意識・動向など)</p> <p>例えば、『将来の夢や目標を持っている子どもの割合』は、小学六年生に五年毎にアンケートを行い集計するなどです。</p> <p>情報の透明性と信頼性を高めることで、市民の皆様との一体感が育まれるものと考えます。</p>	<p>指標の数値は、担当課で把握するものや市民アンケートによるものなどさまざまですので、どのように把握した数値なのかわかるように、資料編として「指標の説明」を掲載する予定です。</p> <p>なお、ご指摘にある「将来の夢や目標を持っているこどもの割合」は、小5・中2・高1に実施した「少年の生活意識と行動の実態調査」で回答したこどもの割合です。</p> <p>また、今後、各年度ごとの状況について、各指標をすべて取りまとめ進捗状況などを公表していくことで市民の皆様にご理解を頂きたいと考えております。</p>
2	全体	<p>小牧市長から20代・30代の転出超過が課題という話があったが、その指標を第1章の都市ビジョンの中核に据えるべきと考える。</p>	<p>定住促進は市の最重要課題と認識しており、第1章都市ビジョンの冒頭で3つの都市ビジョンを基軸に掲げ、「若年世代の定住促進」を図っていくとさせていただきます。特に都市ビジョン1「こども夢・チャレンジNo.1都市」、都市ビジョン3「魅力・活力創造都市」を中心に若い世代の方々が住みたい、住み続けたいと思える魅力あるまちづくりを進めてまいります。</p>
3	戦略1	<p>高校生・大学生に向けた取り組みの欠如</p> <p>小中学生への取り組みは小牧市としての都市ビジョン1の中で多くの事業が戦略の先に位置付けられているが、高校生・大学生に向けた取り組みがなされていない。今後、進路に悩みながら自分の将来を大きく左右する年代に、どのように「小牧」の価値を位置付けてもらえるかが非常に重要と考える。実は、図書館には「この層」が多く集まり日頃から勉学に励んでいる。小牧で先端産業や伝統産業、地域産業を担っている様々な企業群と彼らを結びつける戦略が必要なのではないか？地元企業で働きたいという志が芽生えれば、若い年代の定住に少しぐらいは効果があると思われる。</p>	<p>高校生や大学生に対する事業としては、コマキッズドリームプロジェクトの中でも「夢にチャレンジ助成金」や「海外留学奨学金」、「まちづくりミーティング」などを実施しているところです。また、戦略3にもあります「新しい図書館」ではカフェやWi-Fiも整備され、高校生や大学生にも魅力を感じていただける図書館となる予定です。その他にも、新産業や名産品なども市の魅力向上につながるものでありこのような事業を通じて、高校生や大学生をはじめとした若い世代の定住促進につなげてまいります。</p>
4	重点事業1-2	<p>子育てに優しいまちは、住みたいまちに結びつくことには全く同感ですが、昨今の教育事情を考えますと小学生の高学年から中学生の間の勉強がとても重要です。</p> <p>私立中学や大学進学に有利な高校に入学するには、公的な勉強の場だけでなく、塾などの民間の優れた教育機関に通えるか否かで進学コースが決まるといっても過言ではないと考えます。</p> <p>行政が関与できることには限界があるでしょうが、この点に対するアプローチはないのでしょうか？</p>	<p>ご指摘のような塾をはじめとする公的機関以外の学習の充実も重要だと思いますが、市としては、まずは、小中学校における教育環境の充実を図ることですべてのこども達の教育の充実を目指してまいります。</p> <p>それ以外に、小牧市では、学習意欲があっても学力の定着が進んでいない中学生を対象にした学習支援事業「駒来塾」の取り組みもおこなっているところです。</p> <p>なお、小牧市では国に先駆けICT教育の充実に取り組んでまいりました。ICTを活用すれば、個々に応じた教育を行うことも可能であり、例えば模範となるような教師の授業を、その場になくても受講できるなど、まさに、教育の壁を大きく下げることができると考えられます。民間の教育機関ではこれらの取り組みはすでに始まっていますが、公的な教育としても是非先進的に取り組んでまいりたいと思います。</p>

	該当箇所	委員からの意見等	市の考え方(回答)
5	都市ビジョン3	<p>名古屋造形大学の流出は大きな損失だと感じる。つまりは、産学官連携が形だけのもので終わっており学生や先生に活躍できる環境をつくる努力が足りなかったのではないかと思う。こういった取組みに関する企業向けの補助金があるがその利用は低迷したままである。産学官連携により、企業をブランド化していくこと、それが先端産業、成長産業のみならず、地域産業、地域資源を活用したコミュニティビジネスが続々と生まれていくような環境整備が必要なのではないか。「愛知ブランド企業認定制度」があると聞いているが、「小牧ブランド企業」をどのように育てていくかが課題。そんな場所に、高校生や大学生がかかわれるチャンスがあると、地元企業もイキイキとチャレンジできるようになるのではないかと感じる。確かに、産業創出といった意味での指標例は記述されているが、どこか「夢」を感じない。ビジョンをうたうなら、もう少しワクワクする記述や指標があってもよいと思う。また、SDGsが2030年までの目標とされているなかで、高校生や大学生からのアイデアを産業振興に結び付けていく姿勢もアリなのではないか？SDGsも169の目標が掲げられ、手付かずの課題も多い。小牧として、それを意識したビジョンであることが説明できる記述があつてよいと感じる。</p>	<p>少子化が進む中、大学経営の競争が激化しており、全国的に大学の都心回帰が進んでいる状況にあります。そうした中で名古屋造形大学のキャンパス移転については、学校法人本部としての経営判断があったものと受け止めております。</p> <p>一方で、先日(仮称)こども未来館デジタルコンテンツ等制作に係る連携・協力に関する協定を、近隣の3大学(中部大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学)と締結しました。これは、(仮称)こども未来館に整備するデジタルコンテンツ等について、こども達に遊びや体験を通じて豊かな学びを提供し、「未来を生き抜く力」を育むために、それぞれの大学の持つ学術研究成果や、学生の柔軟なアイデアを活かした、魅力あるコンテンツの制作にご協力いただくものであり、単なるコンテンツ制作で留まることなく、制作したプログラムの更新や、各種講座実施における連携など、これまで以上に学官連携体制が強固なものに発展していくことを期待してのものです。また、地方創生などに関して、多くの民間企業とも連携させていただいており、これからも産学官連携しながら地域づくりを進めていきたいと考えております。</p> <p>なお、企業ブランドや高校生や大学生からなどのアイデア募集などいろいろとご意見を伺いました。今後事業を進める中で、検討していきたいと考えております。</p>
6	戦略3	<p>『バランスの良い産業集積を今後も継続』とありますが、この文章を読むだけではどのようなことを指しているのか理解できないのではないのでしょうか？</p> <p>製造業・サービス業・流通及び運輸業を中心とした適度な割合のことだと考えますが、産業分類別の従業員数のことをご存じない方にも理解できるような創意工夫をしていただければ幸いです。</p>	<p>本市の産業分類や従業員数については、計画の序章「まちづくり推進計画の概要」の(4)「小牧市の産業」で掲載をさせていただいております。特定の産業に偏らずバランスが取れているということは、不況時の落ち込みも少なく、これは小牧の大きな利点でもあるところです。書面的な制約もあることから、計画に記載することはできませんが、小牧市のこのような利点についても市民に知っていただけるよう今後PRを行っていきたくと考えております。</p>
7	戦略2	<p>地域貢献活動をしている市民の割合に関する基準値は、来年度に策定されるとのことですが、お願いがあります。</p> <p>私自身、退職してから何らかの地域貢献をしたいと考え続けてきましたが、何が地域貢献か、どうしたらそれに参加できるかが分からないまま今日に至っています。</p> <p>区の役員や地域協議会への参画が一つの道でしょうが、多様な市民の方に様々な入り口があることを示すことができれば、より多くの方の参画が期待できるのではないのでしょうか？</p> <p>・・・一般の市民の方は、区の役員などへ自ら立候補することは心理的な抵抗感が大きいのでは・・・</p>	<p>ご意見いただきましたとおり、地域貢献活動にご興味・ご関心がありませんが、その入り口がわからない市民の方は、少なからずいらっしゃるということは、認識しております。</p> <p>一言に地域貢献活動と言っても、地域の公園の一斉清掃などにその日だけ参加するものから、ボランティア団体に所属してこどもの登下校の見守り活動や防犯・防災の活動などに継続して参加するもの、そして区の役員などとして地域活動へ参加する場合など様々な関わり方があります。</p> <p>また、このほかにも生涯学習活動を通じて様々な地域づくり、地域活動に参加することも可能です。なお、委員のご意見のとおり、地域活動に対する壁が高いのも事実ではありますが重点事業2-3で掲げました(仮称)生涯学習・市民活動連携センターを拠点とした取組みなどにより、市民の皆様が生きがいを持って暮らせるようきっかけづくりや活性化に取り組んでまいりたいと考えております。</p>

	該当箇所	委員からの意見等	市の考え方(回答)
8	重点事業3-1	指標名の「中心市街地の訪問者数」訪問者数とは、観光・買物・図書館他施設利用者などと思われるが、中心市街地住民はカウントに含むのか？ 小牧駅利用者は含むのか？ 含まないのならどのようにして区分するのか？	中心市街地の来訪者数として、ご意見のような人数をカウントすることは難しいため、新図書館及び(仮称)こども未来館の来館者数とする予定です。
9	重点事業3-3	指標名の「こまき新産業振興センターの支援活動を契機に生産性を向上させた企業数」振興センターが何かの基準で評価されるのではと推測しますが、生産性が向上したか否かや 向上した内容の要因など、評価は難しいと思われます。「こまき新産業振興センターが支援活動をした企業数」に変更したら如何でしょうか (相談に応じた・アドバイスしただけの企業もカウントするか？との疑問もあろうがそれでも価値があると思いますが・・・)	事業の進捗状況を測定するための指標には、活動することを測定する指標ではなく、事業実施によって得られた成果を測る指標を設定するように努めています。ご提案いただいた「こまき新産業振興センターが支援活動をした企業数」は支援をすることを図る指標であり、支援した結果を図るものではないことから少々変更は難しいと考えております。 なお、この指標の数値については、支援した企業の決算及びヒアリング等により把握したいと考えています。
10	重点事業3-5	「小牧市の食や名産品の普及・開発」具体策として、食・名産品をPRする機会として、市民まつり・夏祭りなどがあがると思いますが、食・名産品に特化したPR展を定期開催を企画し、マスコミ・販売の可能性が期待される企業を招待、市民や近隣の人にも参加を促す活動を企画しては如何でしょうかとの提案です。	食や名産品の普及・開発における具体策としてご意見を頂きました。この事業は、今後市や商工会議所など関係団体とも協議しながら、考えていくこととなりますので、その際の参考とさせていただきます。
11	財政運営	この先の歳入と歳出の厳しさを踏まえ、行政に携わる方が真摯に取り組もうとしている姿がひしひしと伝わってきます。 このような苦境を乗り越えるには、行政だけでなく、市民の皆様も巻き込んだ活動が絶対に必要と考えます。 そのための一環として、まちづくり推進計画の中に市民の方にも危機感を共有していただき、痛みを伴う改革への参画求める可能性にも触れることはできませんか？ 例えば、コンパクトシティ化、サービスレベルの見直しなど	計画の序章、6「計画策定にあたっての前提」の(2)「財政推計」及び基本施策「財政運営」の現況と課題において、今後の財政状況はますます厳しさを増していくことが見込まれることを記載していますが、基本施策「財政運営」の「まちの状態を表す指標」の部分に、当該指標が不確実性の高い外部要因の影響を受けやすいことについて補足説明を追記することで、より市民の皆様などに分かりやすく共有していただけるよう修正します。
12	財政運営	連結財務諸表にあるその他の経費28億円の内訳を教えてください。	平成29年度の財務4表の行政コスト計算書のうち、その他のコストの内訳については以下のとおりです。 ・その他のコスト 28億円 【内訳】 ・控除できない消費税相当額(病院事業会計) 6億84百万円 ・支払利息 5億 4百万円 ・補助金等返還金 1億95百万円 ・徴収不能引当金繰入額 1億84百万円 ・市税等還付金 1億39百万円 ・水道管等移設費 1億 2百万円 など